



初白髪

豊





壽景

湖東

含山軒

擬藝

白髮

目出

杖ハ

ワケ杖

含華臺主人初老誕賀

其徳鑽之彌堅まゝこの
高き事

和州

襲淵居

晉龍

ぬこ二十^ナ作くや寫士の

八^ナき^ナる

浪華

凌雲亭

小篠生

白桃の花ハ蕪姑射也

肌^ハう^ハぬ

勢州

五雲樓

乎呼理

大鵬や羽ふ雲のふた

花^ハあ^ハる

三

敬祝

美草と見よの松や松の春 草扇
 家揺花よ花あたまわひか 溪楓
 場も廣く栄るん花れ花う 等及
 野らぬや花あよまを花の糸 君風
 本地うらよ花きぬまれらりか 可嘯
 正た日や花あまを花みり 砂印

ふ代をゆる花あよわのや花の糸 有樂
 葉へゆく花中花れらりり 外士
 花海花やふ代を花き花りり 菊露

賀詞

故呼貴子初志の賀より作り

治

秋江亭

入初志志の心路や

きく花

座井

祝壽

十掬れ中よ尊し

露由

洛

初志をききして

杜鰭きてハ新茶の味えは

万流

洛

初掬世よりそふの心道よりそ

百非

敬賀

桃さくや玉女をきけ

和文

和左味田

衛くとぬもす中

西湖

同音寺

見ゆきまのゆりこよ花は四十坂

一壺

尾著尾

二重何くそら掬れ花

梨筵

八尾此俗都不惑の心をよ

佳男も子代と多かり申

桃の花

泉下村 草静舟

桃水

奉賀

入初れ王女り室中 勝氣

全所

猪

月此世しやりのふ夢や桃れむ

保舟

祝誕

ふ代かちり花きく志れ初冠

撰多田 再竹亭

鼓月

老若れ代くの春るん花衣

全人嗣

鼓流

奉壽

添生外多盤れ栢も花りよひ

洛

野了

恭祝

春鳥飛れ悠とわたり沖花のト

塚

相就

らんかりと今日老らく申桃の酒

順敬

榮もせふ代も王女り室れま

昭榮

まの母い但る月細や明雲雀

泉下村

圓栞

くろくや老のぬく 柵此洞 壽昌
新津元此のまはきぬ 壽昌場 一嵩

奉賀

感るぬやふ代の礎 玉此花 八尾 西山
幾ふ代を及中井はくのことと竹 山芳
初幕や中井はく道の跡を山 臥石
小の鞠やふ代の教を初白心 南来

坂をよひ越して雲かへ 峰此雲 如童

感りしふ戀をぬきしうらな 音々

奉壽

感はて老ぬ門はらぬ 蓬揺 八尾 東鯉
ぬく二ヶ後のまを山そ花のま 希文

奉賀

よきかゝる年もはかしくや初揺 何橋場 哥竹

其徳のかちるや松の花は度 全植松 林鹿

古きとハ脱て色まは花あも 全上鳥 好山

西玉母の咲や一枝花の條 全植松 梅軒

桃幾ときあはる人羽初 全弓削 玉路

四程の花ゆるや其子代十寸後 全南老原 柝首

十之里花の幾さ年母辰 全南老原 如醉

世小自よあさく子代花芽出 全南老原 枝風

壽辞

桃咲やもうと清浄の 浪華 吐龍

車賀

山笑やゆくと玉母花月の周 浪華 觀山

秋よとや百まで照せまは月 浪華 二酉

西本此うし長代代よ
於化う路らんりまま

何あはても感りぬ味や探網 浪華 春蘿

故呼君初老初老賀ふ賀ふトトせられ

泉山和旧

花より代初らん老の初初流流山山 雙雙峨峨

敬祝

策ツキ初初流流藤藤のの枝枝中中好好ひひ杖杖 舍舍来来

堀

山口山口やや老老もも幾幾ききれれるる車車 梅梅里里

汲汲りり中中於於流流ももままのの芽芽三三羽羽まま 秋秋等等

玉玉うう山山らら月月もも長長坂坂やや初初流流ええ 只只清清

祝誕

丹頂丹頂のの栖栖ハハ流流 八八ききううままみみ 松松流流

越新深
濃石舎

賀賀

杖杖極極りり侍侍るる一一花花れれ三三子子代代まま 河河出出口口 雅雅笑笑

花花貴貴世世老老のの名名ハハかか一一見見極極 竹竹台台

奉壽

走走ふふうう一一ふふくく一一やや初初賀賀れれああみみりり 江江長長濱濱 柀柀支支

夢や一昔に幽とて夢を松のむ 蘿婦

を清あつく従へや不老友花 箕山

此亦貴れ世壽なりとて後傳りて

のけよふふふふふふふふふ 全 机友

獻壽

花をよむ道なをむらゝふ案酌 越巻邑 揺岳窩 滄洲

敬頌

ヨリオホ 四ヶ老ハその徳經へ一三ふ代家 振平野 友水

四十年をいく十ヶへ一三ふ代家 素友

是かろく花れ糸生やふ代家 都紫

山を打テ先老初のと花れ派 扇紫

奉壽

社カヲたふ振りてとや友ろく 辰華 兎亭

花がやトあふふ先のめくか 舞冬

八十共申す後り花さく々網里沖
三ふとせの結えんちや桃の酒謝大

祝歌

こふ代咲くその初花そふ白髪 塚此君亭 佳川

長き日もあうぬ梅中四十坂 全采晴園 梅枝

祝辞

城の坂とハ花れ蒼う那 洛 獨嘯亭 東籬

虎杖言ふ四柱一此詩賀と

奉祝

何知老恋きこふく 洛 後扇翁 八百彦

言華堂主人、初志の序賀ふ
とくは出で

撰多田山中
榎水軒分三更

白羽

老の名ハ何事と活生此若縁

言華堂主

獨活の心とくぬもよの程 虎杖

嘗れ少留る宿よ鶴さきた 晋龍

情くぬ先り数向かりきり 小篠生

蕙酒此楮口よきうと直の月 挑水

昔のよふハ照り初落よ味 乎呼理

かけ出テのこくふ入^ウせとがく^ウ 章麻

捨切とせも捨ぬ年と袋 溪楓

今胡ハまこと信遅き鳥鳴 等及

観^{ハクキ}て二人かこらふ民妻 君風

巫の口舌^{ハクキ}なりとんふ早振 如是為

本具を陶ハ安彦ハ世ハ 春薩

松の月指を返さハ安彦此月 八百彦

皆系むもれハ麻ハあるハ 執筆

繩系も後ハ落さハ秋を心 溪楓

玉此危 去りも 産めけ 等及

官軍の志りハありし花也 小篠生

直心流て麦の女ふさる 杞水

佐保始れ胸の阿らうに 幸義光 平吟理

菓の附るよハぬき 須永 如是為

とハ海さハくきと 端とよあり 君風

竹あハくしめて ね又ハ喜落り 章扇

舌よ吸ハ本さハに梅ハかき今 等及

吸およよさハさハ 東ハ雲 曾龍

と鴨ハ白ハ干鮓ハ 艘漕ハあり 春薩

情^ハ美のきもゆさるゝ不覺 八百彦

縁を縁も秋はこやうお静 挑水

四^ハふふ五^ハふふとけ敷^ハは^ハ徳^ハく 小篠生

月^ハ裸^ハ王^ハ依^ハの方^ハも^ハも^ハも^ハし 如是為

新酒ハ量ふしと先生 君風

芳^ハま^ハま^ハれ^ハ仙^ハの^ハ酒^ハひ^ハよ^ハ新^ハハ^ハぬ^ハけ 草扇

高^ハも^ハ書^ハま^ハれ^ハ惚^ハて^ハん^ハや^ハ志^ハま^ハき 溪楓

を^ハの^ハう^ハこ^ハ急^ハ衣^ハう^ハれ^ハ雙^ハッ^ハ後 晋龍

波の急くねを満とつらん 春菴

咲^ハう^ハへ^ハよ^ハ花^ハと^ハ百^ハま^ハし^ハ一^ハ國^ハの^ハ急 乎呼理

翠^ハ簾^ハも^ハ侍^ハふ^ハ簾^ハも^ハお^ハふ^ハま^ハう^ハ歩 執筆



虎杖

専ら

花

人

い

か

祝

新

子

初

殷

あ

家君僧都初老此賀庭を教布親族

急務を待て祝せしむるあひて

現衣舞踏のさくらとのぬ

いづく枝りも春に感りて移人 如是る

よふさや今日より花の一曲句

おふ〜

けし賀人の橋人のてはらひといひ白 少人 鱸子代

春菊やけし賀人もよせの劇 女 草思

十之八れその初花うらみとり 草郷

青柳や風よそそきぬる白髪 州羅

賀人章

睡龍

曙ハ春も

志しるや 初花えん

志しるや

引おれ 青よ志初やよげの女 尾 草千

道よ富む名はいくちう花のそ 艸昌

おれあふ下の長閑き日影か 草基

けまやふ葉の板れ也初節 艸勝

寿亭

加葉

さ清朱賀

かよふよま 松の花

四本の奇吟砂巖之頌洋々五破海の

浪よ拾い撰へた合玉れまゝ

寿き終りけり小怪よまゝ

道遙觀

如是為

寂とが根うよふれ花ま砂

いく代の山も壁のむらさ 草思

空の紙巻おの猿の尻すいふて 艦千代

含華臺

極流人

ふく智れ書よ

サ黎水のサ牙

乙亥之歳飛花之月
刻于家塾

墨江 道遙觀

